

# イマヌエル教報

2021.

7

1947年7月1日第三種郵便物認可 2021年7月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.900

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

## 神の聖火ランナー

世界宣教局長 田辺寿雄



地域によっては中止や辞退者も起る中、オリンピック開催に向けた聖火リレーが続いていますが、私たち信仰者も神の聖火ランナーであることを思い出しましょう。どんな火を灯し、掲げていけるでしょうか。

まず、祈りの火です。神は出エジプトしたイスラエルの民に「あなたがたは、わたしにとって祭司の王国となる」（出エジプト一九・6）と宣言されました。イエス・キリストは「変わることはない祭司職を持つておられ」、「いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられる」お方です（ヘブル七・24、25）。私たちに「いつでも祈るべきであり、失望してはならない」（ルカ一八・1）と、祈りの奉仕が与えられています。コロナでできなくなったことはたくさんありますが、祈ることはできます。集まることが制限されていますが、祈りが制限されることはありません。歴史的な大困難の中で、世界中の人々が生ける神に祈り求めるよう招かれています。ましてや「祭司の王国」として召されている私たちクリスチャンは、失望せずに祈り続けるべきです。互いのために祈りましょう。祈りはソーシャル・ディスタンスを超えます。祈りを通して、会えない人の心を励ますことができます。祈りによって、人が救われていきます。祈りを通して神が働かれます。家族のために、教会員のために、牧師のために、そして誰かの救いのために、祈りの火を燃やし続けていきましょう。

次に、みことばの火です。「私の足のともしび」（詩

篇一九・105）であるみことばによって、日々照らされ、導かれて歩む者でありたいと思います。コロナ禍は、情報の渦となり、情報社会に拍車をかけました。人の色んな言動も気になります。だからこそ私たちの心と生活の中に、どんな情報にもまさって「キリストのことばが、豊かに住むように」（コロサイ三・16）しなければなりません。コロナやワクチンの情報を求める熱心さ以上に、みことばを求めましょう。長い時間をかけて聖書を読むことも幸いですが、一つのみことばを一日のうちにも何度も繰り返し思い出し、口ずさむことを心がけてみてください。みことばの火を心と生活の中に絶えず灯していきましょう。

最後に、御霊の火です。それぞれに与えられている「御霊を消してはいけません」（1テサロニケ五・19）。信じる全ての人に、聖霊は与えられています。その火を大切に、灯し続けましょう。そのためには、祈りとみことばが必要です。祈りとみことばの中でこそ御霊は力を発揮され、違いのある私たちを一つにし、キリストに似た者へと変え続けてくださいます。情報や流行ではなく、恐れや心配でもなく、プライドでもなく、御霊に導かれて歩んでいきましょう。

「世の光として輝くためです」（ピリピ二・16）。「光」という漢字は、「人」と「火」がひとつとなっていて、火を掲げる人が光になれる。私たち教会は、コロナ禍で暗いこの時代の、神の聖火ランナーです。どうか、辞退はしないでください。

### 目次

- 神の聖火ランナー……田辺寿雄……1
- コロナ禍での教会、コロナ禍セミナー西日本……2
- 女性牧師部研修会、とにキャン案内、JEA総会…3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、燭台…4
- 北日本ブロック近況と祈禱課題、オンラインの学び…5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

# Immanuel

BAに聴く コロナ禍での教会……

# 教会・礼拝・伝道を考える 主との交わりを大切に

中部 BA 浜田耕三

これまでも様々な取り組みや分析が紹介され、多くの示唆をいただいています。このたびは現況を踏まえつつ、教会（私たち）の在り方について、思い巡らしの一端を分かち合わせていただきます。

1 コロナ禍（世）にある教会。改めて、教会が置かれている「世」がどのような所であるのかを教えられます。コロナ禍に見られるように、教会の営み、また信仰生活は嵐の吹き荒れる中、「水の上を歩く」ようなものと言えます。けれども初代の教会は迫害の嵐の中、平安を保っていました。その秘訣は主を恐れていたことにあります（使徒九・31）。先が見えない嵐の只中にあっても「わたしたち」（マタイ一四・27）とおっしゃる御方に堅く目を留めて、この御方とともに歩んで行きたいと願います。

2 コロナ禍と礼拝。神さまに召し出された私たち（教会）は、これまで当然のように集まって礼拝を捧げて来ました。その恵みの大きさを改めて痛感しています。同

時に集まることができない痛みを覚える次第です。けれどもたとえ今、集まることができず、家庭にて個々に礼拝を捧げていたとしても、贖われた神の民であることを覚えながら、「隠れたところにおられる」（マタイ六・6）主の聖前に、真実にひざまずく者でありたいと願います（ダニエル六・10）。この姿勢こそが主との交わりを一層深め、この暗い時代にあつて「世の光」として主を証しする存在とし、後に主の栄光を拝することになると信する者です。この困難の中にあつても「礼拝」をもって真摯に歩みたいと願います。

3 コロナ禍と伝道。コロナ禍にあつて益々、「マケドニアの叫び」が上げられていることを覚えます。一方で、教会の営みが様々な制約を受けているのも事実です。けれどもそうした中、それぞれの教会における真実な取り組みによって福音の前進が見られている事例なども伺い、聖名を崇めます。小さき群れ（島田）でも新たな営みを開始し、「手ほどの雲」を見せていただいています。牢獄にありませんがらも使徒の務めを果たしたパウロのように、この制約された中にあつてもなお、できる働きを探りつつ、（かつて自らもそうでしたが）「……弱り果てて倒れて」（マタイ九・36）いる方々に、福音の恵みをお届けしたいと願う者です。この時代に遣わされた福音の使節として、主に期待しつつ、共に労して参りたいと願っています。

宣教研究委員会及び国内教会局共催

## 公開Zoomセミナー開催 コロナ禍における教会・西日本

### 教会はどう乗り越えるのか ポストコロナを見据えて

木更津教会 宮崎聖輝

6月14日、公開Zoomセミナー「コロナ禍における教会・西日本」（宣教研究委員会及び国内教会局共催）が開催されました。このセミナーは2回に分けての会合で、14日は西日本対象でした。

はじめに田辺寿雄師によるアンケート（宣教研究委員会実施）の集計結果が報告されました。教団の6割の教会がオンライン対応を実施したこと、昨年の受洗者数が前年度と比べて5割の減であったこと、財政では特に集会献金の減少が目立ったことなどが挙げられ



はじめに田辺寿雄師によるアンケート（宣教研究委員会実施）の集計結果が報告されました。教団の6割の教会がオンライン対応を実施したこと、昨年の受洗者数が前年度と比べて5割の減であったこと、財政では特に集会献金の減少が目立ったことなどが挙げられ

ました。課題として特に牧師のリーダーシップ（調整力含む）が問われていること、会えない中で、どう交わりを深めていくか、伝道を展開していくか、どう礼拝を充実させていくか、常にこの課題が問われているとのことでした。

次に「コロナ禍での伝道と牧会」と題し、2人の先生による発題がなされました。1人目は松江の南場安正師でした。「そこで増えよ、減ってはならない。」（エレミヤ二九・6）との主のみことばに励まされていること。そして昨年からの取り組んでこられた具体的な対応について語られました。特に役員内の一致と、役員会と教会員との調整には大変苦心され、このようなときにこそ牧師の丁寧な説明が不可欠であることが語られました。

2人目の発題者として仙台の細田恒太郎師が語って下さいました。特にYouTube配信からZoomに切り替えたことにより得たメリットについての報告がありました。YouTubeの場合、どうしても一方的な情報伝達となり、牧師が個々人の状況を把握しにくい点や、ネット越しの信徒が礼拝奉仕に加われない点がありました。Zoomによって解消したこと、相互の意思疎通がスムーズとなり、信徒がネット越しであっても礼拝奉仕の参加が可能と

なつた事例が挙げられました。また伝道についてもオンラインが普及し、かつて教会の敷居が低くなっている点が語られました（Zoom伝道会についての報告がありました）。またオンラインは高齢者のケアに貢献する可能性があり、それまで毎週の礼拝出席が難しかった高齢者の方々でさえ安心してオンライン礼拝に出席しておられる事例が挙げられました。お二人の発題の応答として、福岡の國重潔志師がたてられました。お二人の発題に共通していることは、人格的な繋がり大切であること。リモートであったとしても、パーソナルに届くことを常に心がけていくこと。またコロナ禍での閉塞感が蔓延するのときこそ牧師が希望を語り続けることであるとの提言がなされました。

次にZoomのブレイクルームを用いての分かち合いが持たれました。全国の牧師、信徒方との交わりはなにより励ましとなりました。

最後に岩上祝仁代表から総括がなされました。出エジプト三章7節、イザヤ五三章7節が開かれ、苦難の中でも主を見上げる幸い、休息、繋がり（コイノニア）、教会の本質的なことを問い続けることの重要性が語られ、最後は第一コリント一五章58節をもって締めくくられました。長期化したコロナ禍で、こうしたセミナーの機会が与えられ、多くの示唆と励ましに満ちた会合でした。

## 女性牧師部研修会 コロナ禍にある女性牧師の セルフケア 霊肉の健康管理の大切さ 5つの対処法を学ぶ

女性牧師部 宮島幸子

6月14日に持たれた女性牧師研修会の報告をさせていただきます。

今回の研修会のテーマは「コロナ禍にある女性牧師のセルフケア」でした。はじめに、教育局長小川宣嗣師より「教職試験のご案内」として、特に牧師夫人の先生方へ、みことばと「理由」をあげて丁寧にお勧めがありました。その後、古川恵子師の発題が以下のようになされました。

- 1 「セルフケア」とは……心身ともに健康でいられるように自分で自分を管理すること。
- 2 コロナ禍の中、牧師として感じた疲れ
- 3 女性の体調の変化
- (1) エストロゲンの減少
- (2) エストロゲン低下により、自律神経の働きも低下
- 4 若い時のように元気にはなりません、現状の中で上手に対処しながら元気に生きることができません。例えば、

(1) 食事……エストロゲンを増やすことができる食事

(2) 運動……週3回30分くらい汗かく程度の運動をしています、運動すると体調がよくなります。

(3) 温冷浴……入浴と少し冷たい水を浴びる温冷浴は自律神経を整えます。

古川師ご自身が考えた結論として、血流を良くすることが大切と語られました。血流を良くすると体内の老廃物が汗と尿から排泄され気持ちやすくなるということです。簡単な運動をすることが勧められました。

5 霊的な疲れの対処方法  
古川師のお証しで、多くの困難・試練・課題を、神様に委ねること、信じることの訓練として前向きに受け止めた経験や、牧師の一番のセルフケアはみことばによる励まし、イエス様の御業をひたすら信じることで、先生方とともに祈ることによると語られ、7月から始まる月1回の「女性牧師祈り会」のご案内がなされました。そして、参加者46名がグループに分かれて分かち合い、お祈りをもって締め括られました。

今回はコロナ禍でのセルフケアについて、特に女性牧師の霊的、健康面に焦点を当てて語られ、両面のバランスの大切さを改めて教えられました。Zoomでしたので、海外から宣教師方も加わりました。先生方のお顔が見えて嬉しかったとの感想もありました。女性牧師同士の交わりや支え合いがいろいろな形で少しずつでも実現していくことを期待しつつ。

## とにキャン開催ご案内 大島重徳先生を迎え オンライン開催です 仲間を作ろう!

中高生課 細田恒太郎

今年こそは対面でのキャンプを願っていた「とにキャン」ですが、コロナの影響が収まらず、残念ながら今年もオンラインでの開催となりました。

しかし準備する側も急遽対応しなければならなかった一年前とは違い、オンラインの特性や機能にも理解が深まり、より楽しい集会を提供したいと、新しい試みを複数プログラムに組み込んでいきます。オンラインということで参加に消極的になる学生もおられるかもしれませんが、ぜひ励ましてお送りください。感謝です。

今年も「とにキャン」で幸いなご奉仕をしてくださっている大嶋重徳師(元KGG総主事)をお迎えし、2日間わたるプログラムを準備しています。中高生にとっての1年は、内面も身体も大きな変化を通過する時期です。この大切な時期に、聖書の真理が学生方の心の深い部分に届けられ、また幸いな信仰の仲間とのネットワークが築かれることを実行委員会としても心から願っています。「とにキャン」の祝福を覚えてお祈り下さい。

## 第36回 日本福音同盟(JEA)総会 対面/オンラインで開催 次回日本伝道会議の準備



浜松教会 葛田直毅

コロナ禍のために昨年は文書で行われた総会でしたが、今年は静岡県掛川市のみつ恋りゾート彩の郷とZoomによって、予定よりも1日短縮して6月7日、8日の両日に開催されました。

会場には理事・専門委員会の委員長などの40名が対面で、100名ほどがZoomで参加し、後述の調印式には海外からもオンラインで参加する形となりました。

会場では各テーブルに1名だけが座り、座席には消毒用アルコールと除菌ティッシュが備えられ、発言者にはフェイス・シールドが用意されました。宿泊は全員が個室、食事もアクリル板で仕切られたテーブルに1名が座って黙食するなど、厳重な対策の下で進められました。

6月7日(月)の午後、石田敏則理事長により、ヨハネ二・17より開会礼拝のメッセージが取り次がれ、第一回の議事会では第一号議案・諸報告がなされました。

夕食の後、内山勝理事の司会により、日本福音同盟・アジア神学協議会(ATAJ)・日本ローザンヌ委員会(JLC)の三者協力覚書調印式典が行われ、それぞれを代表して石田理事長、倉沢正則師、立石充子師が調印し、続いてZoomを用いてアジア神学協議会総主事のテレサ・ルア師による講演と、パネル・ディスカッションが続きました。

8日の午前には神戸博央理事により、朝の祈りの時がもたれ、使徒一七・16以下よりメッセージが語られ、第2回議事会では第7回日本伝道会議(JCE7)実行委員長の小平牧生師から、テーマや開催方法などの報告があり、続いて第二号議案の事業計画、第三号議案の予算が審議されました。

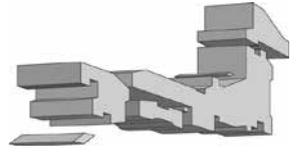
午後にはJCE7の理念・テーマ・プログラムのディスカッションが会場の6グループとZoomを用いて行われました。代議員に加え、関連する専門委員やプロジェクト・チームのメンバーもディスカッションに加わりました。

その後、新理事の倉嶋新理事より、IIテモテ二・9、四・1、2から閉会礼拝のメッセージが語られ、石田理事長の祝福によって無事に締め括られました。

コロナ禍のために制限が多かった反面、オンラインならではのメリットも生かされた総会となりました。JCE7に向かっている可能性も実感し、祝福された総会となりました。お祈りを感謝します。



# 国内教会局 スクエア



## 北日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー  
細田恒太郎

《北海道地区》(担当 大兼久芳規)

釧路教会では、深川教会と姉妹教会としてのインターネットで結んでの礼拝が継続されています。それに加えて、全国の先生方にも来銚いただき、礼拝での御用を通して教会をお支えいただけますと感謝です。また札幌教会の協力を得て、中国語と日本語での聖書の学びがなされています。

夏のポプラ聖会の時期ですが、今年はコロナ禍で開催が許されず、他の教区のオンライン聖会に合流の予定です。北海道では3教会による納骨堂があり、丁寧な維持管理がなされています。

《東北教区》

大湊教会では、コロナ禍ではありますが、新たに来会される方や信仰に導かれる方が起こされました。青森教会では、教会での集いが続けられ、墓前記念会などの諸集會も守られています。

十和田教会では、継続した求道者の方々が与えられています。また今年は「会堂強化年間」として会堂返済にも力を入れています。盛岡教会では、昨年の11月より

## Zoomによる礼拝が行われてい

ます。また健康的戦いを通しておられた國光ひろ子師も強められています。秋田教会では、コロナ以前よりZoomによる礼拝配信がなされており、現在も併用される形で集いが守られています。

山形教会では、クリスマスチャンホームの子どもたちが中高生となり、信仰の継承に特に力を入れています。鶴岡白山教会では、近隣の住宅地にイースターなど教会記念日に合わせ、グッド・ニュース(トラクト)の配布がなされています。

仙台教会では、Zoomを用いながら、礼拝等の諸集會が持たれています。また5月には伝道所跡地の売却が無事終了し、新会堂建設に向けて準備が進められています。

郡山教会では、2月13日の地震により、会堂に亀裂が生じましたが、4月末に修復工事が無事完了しました。

《北関東教区》  
宇都宮教会では、時間を短縮し

て礼拝が持たれています。高崎泉教会では、冬季の間、教会での集いを休止していましたが、4月からは再開しています。また強風で教会の十字架が傾きました。現在は新しいものに取り換えられました。

上田教会では、警戒レベルに合わせ、ネット配信を取り入れながら、会堂に集まる人数を制限しての礼拝が守られています。鴻巣教会では、感染状況を見ながら教会での集いを自粛し、CDを配布して家庭での礼拝が守られました。

北本教会では、消毒などの徹底と共に、三密を避けつつ、礼拝が守られています。

大宮教会では、年明けから3月末までYouTube配信による無会衆の礼拝が続きましたが、現在は配信と併用する形で対面での礼拝を再開しています。

浦和教会では、YouTubeとLINEを用いながら、礼拝、祈禱会、またゴスペルクワイヤなどが実施されています。また現在、外壁や屋根等の大規模リフォームが実施されています。

蕨教会では、昨年3月より時間を短縮し、礼拝が持たれています。鶴ヶ島教会では、礼拝と祈禱会が通常通り開催されています。

越谷教会では、Zoomと併用する形で、感染対策として2部制での礼拝が持たれています。またオンラインでの聖書の学び会なども予定されています。

## オンラインでの学びご紹介……

# こんな時期だからこそ じっくりと聖書を学ぼう 27の聖書講座紹介



### ▼信徒聖書講座

教育局では昨年からは信徒聖書講座を無料で紹介させていたいただいています。教団のホームページからご利用になります。講師は岩上敬人先生(JEA総主事、神戸教会出身)で、「使徒の働き」です。(原則毎月)使徒の働きは、主の昇天後、聖霊がすべての人に注がれるというペンテコステ、聖霊に満たされてクリスチャンたちが福音を伝えて行く記録です。

きよめの大切さ、聖霊に満たされる恵みを講義の中で話していただきます。教会で、グループで、

個人で学ぶことができます。多くの方から、幸いな学びの感謝の声が届いています。以前VHSで提供された聖書講座、「主の祈り」(藤本先生)も毎月載せていきます。



### ▼eラーニング講座

Graceonlineでは、現在、6つのeラーニング講座が展開されています。こんな時だからこそチャレンジしてみませんか?

その分野での人気講師による質の高い講座。1講座は8週で、しっかりと学ぶ事ができます。神学校の単位としても認定され、牧師や神学生、信徒伝道者には教団育局から受講費補助も有り。もちろん信徒の方々にも学んで頂くことができます。有料講座ならではの講師陣と考えられた編集動画。自宅で一人でも学びやすく作られているので安心。(一度購入すると何度でも動画や資料の閲覧が可能)お問い合わせは、担当 大津まで  
ohisu@immanuel.or.jp

## 巻頭言

## 宣教のネットワーク



世界宣教局  
葛田 康毅

「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」

ペテロ、ヤコブとヨハネが主イエスの召しに従い、弟子として歩

(ルカ五章4節)



## 広げた翼

Immanuel  
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

み出したのは、主のみことばに従って二艘の舟が沈むほどの大漁を経験した時でした。宣教は主のみことばに従ってなされる働きであるとともに、一緒に網(ネット)を引き上げる仲間とのチームワーク(網だけにネットワーク!)でなされるものだということ象徴しているのではないのでしょうか。

5月18日、久保先生ご一家が台湾に赴任されました。コロナ禍の中で、新体制の下での最初の宣教師の赴任は、外国人の入国規制の僅か9時間前という、まさに劇的な展開となりました。全国でささげられた祈りによって奇跡的に繋がった宣教です。台湾だけではなく、各宣教地の働きのために、これからも「祈りのネットワーク」を持ち続けていただけたら幸いです。

また、今回、久保宣教師は台湾聖教会から招聘されました。台湾の聖教会との関わりはIGMのルーツをたどれば戦前までさかのぼれますが、台南聖教会との直接的な協力は、私たちが奉仕していた30年以上前に、当時台湾在住だったインマヌエル教会員とご友人のために、月1回の日本語集会の場所を提供してくださったことから始まります。

当時救われた川路姉が今は伝道者となられ、平瀬宣教師が受け継がれた働きの中で、日本語部の設立に発展しました。3人目となる宣教師を招聘団体として受け入れてくださる高牧師は「また、新しい物語が始まりますね」と心から歓迎してくださっています。30年来のネットワークが深まり、実を結びつつあることを嬉しく思います。その前にはTEAMという宣教団体も、ビザのために助けてくださっていました。

もちろん、GPとWGMとの70年を越えるIWFの幸いな宣教協力が、これまでの私たちの多くの宣教師派遣を可能としたことも忘れてはなりません。宣教地だけでなく、日本で労されるIWFの宣教師との交わりも深められて、「宣教のネットワーク」が強化され、主の業がこれからも展開されてゆくことでしょう。

私たちが傍観者ではなく、「宣教のネットワーク」の共労者として、この素晴らしい宣教の働きにさらに励みたいと願っています。



TAIWAN

台湾

久保光彦・せきな\*2021年6月8日

「主は…途上の彼らを導くため」

(出エジプト一三章21、22節)

5月18日に台湾への入国が許されました。原稿執筆時(31日)は間もなく隔離期間が終わり、さらに1週間の自主健康管理期間で、実質3週間の隔離生活となります。文字通りの「ステイホーム」状態で、さまざまな制約の中の生活ですが、主は私たちを支えてくださっています。留まって奉仕を続けてくださっている平瀬先生や台中教会の皆さんとは、ズームを通してご挨拶が許されました。食料など生活に必要な物資の補給も先生を通してなされています。直接顔を合わせることは厳禁ですので、LINEで必要なものをお知らせすると先生が人知れず物資を玄関先に置いて、LINEで知らせてくださるという流れです。教会の方も様々な物を先生に託してくださり、支えられている日々です。

査証申請までも様々な出来事がありましたが、それはまた別稿に譲るとして、査証(宣教師ビザ)の申請は4月9日に行い、通常発給には1、2か月かかるころ、ほぼ1か月後の5月14日に無事に受領することが許されました。現地との調整の結果、コロナ禍の状況を鑑み、少しでも早い渡航がよいということでひとまず翌週21日のフライトを予約しました。

ところが、週明けの17日午後3時ごろ台湾より緊急連絡が入り、台湾国内のコロナ感染増加につき、19日0時をもって居留証(ARC)を持たない外国籍の者の入国が制限されること。居留証は入国後に手続きをして発給されるものですから、まだ入国していない私たちは持っています。18日24時まで台湾に入ることができなければ最低でも1か月程度の足止めを食らうこととなります。幸いなことに18日の昼の便が見つかり、それに間に合わせるべく、PCR検査を夕方受けました。クリニックの方のご厚意で、本来は最短で翌日午前に受け取る検査結果を当日夜に早めてくださり本当に感謝でした。コロナで減便が著しい中、18日のちょうどよい時間に関西国際空港からの便があったこと、その日のうちに検査結果が出たこと、不思議なようにすべてを主が備えてくださったことを感じます。隔離期間が終わると引継ぎとなります。良き引継ぎがなされますようお祈りください。また、奉仕には直接関係ありませんが、日常生活で必要となる現地語(台



台湾全国の警戒レベル3への引き上げに伴い、室内の集会は5人以内で制限され、5月16日の礼拝から教会のすべての集会はオンラインに切り替えられました。台南日本語礼拝はすでに数年前からネット配信をしていましたが、台中教会では教会の有志メンバーで配信チームを立ち上げ、5人以内の制限を守り、リアルタイムで礼拝を配信しています。6月7日、警戒が再々延長となり6月末までとなりましたので、なおしばらく対面での集会はできませんが、お互いに励まし合い、オンラインを介して心一つにして進んでいきます。■

「汝らも我らの為に祈りをもて助く。」(文語訳)「……祈りによって協力してくれば神は私たちを救い出してくださいます。」

(IIコリント一章11節)

コロナ禍の中に歴史が大きく変化を見せており、各宣教地の状況同様戦いは決して楽ではない中で信仰のご訓練の日々が続いております。この様な状況の中に置かれることにより、人的手段の限界！なす術もなき宣教師と現地の伝道者にとり「我ただ祈るなり」と跪かざるを得ませんが、皆様方の常日頃の絶え間なきお祈りがいかに力となり支えとなっておりか、をひしひしと覚えさせられて改めて「祈りの座の宣教師」の皆様方に心からの感謝を申し上げます。その様な状況ですが、先日、現地とのスカイプ会談で現地の様子を聞かされ、彼らの置かれた状況をご報告するに当たり上記の御言が心に思い浮かびました。6月号にご報告しましたが、相変わらずの



厳しい規制の中での生活の様子を聞く中で、一つの驚きと笑い話が残りました。

市場が閉じられ、野菜や魚肉類はスーパーマーケットに行くしかなく、値段高騰のためショッピングも容易ではない中、裏の洗濯物干場に野菜を植えて不足を補っているそうです。問題はタンパク質！ところが時節柄ちようど羽蟻が窓を開ければ群をなして飛び込んで来る時期で、それを網で捉えて唐揚げにする上質のタンパク質が摂れる、という事で、最初は飛んでくる羽蟻を恐れて叫んでいたダビデ君にヴァンディ先生が捕まえた羽蟻を唐揚げにして、美味いから食べてご覧！と食べて見せたところ手を延ばし、食べてみて美味しい！と喜んで食べていると！彼らはコオロギもタンパク源として食べますが彼らの遅しさのゆえに主に感謝！ こうした戦いの中の彼から先日メールが届きました。「Mam Grace、神様があなたの生涯に託された使命が聖霊の力により全うされることを



祈っております。そして私も同じ使命に立って、将来、地の果てまでの宣教をヴィジョンとして与えられていきます」と認めてありました。ハレルヤ！ 道は遙かなれど事を成し給う主を見上げつつ！■



「神を待ち望め」(詩篇四二・11)

「ウェスレー神学」のクラスは本来前期に行うのですが、諸事情で受講できず卒業を控えた男子学生ジェイマークのために一対一でクラスを行なって来ました。毎週クラスだけではなく、課題が与えられ答えを発表、それに対して常喜が質疑応答、議論をします。最後の授業は、ウェスレーの説教を1つ読み、それについて発表してもらいました。聞き手が常喜だけというのにも寂しいと思い、密かに同級生の男子学生2人に声を掛けて参加してもらいました。発表当日、彼は何も知らず、常喜にだけ発表すると思いきや、オンラインクラスに入ってきたところ、同級生の2人がいたので驚き、盛り上がりました。実はこの3人の学生は前期で常喜のクラス「ダニエル/黙示録」を受講していたので懐かしい再会ともなりました。ジェイマークの発表後、学生たちから「アダム罪」について質問があり、白熱した議論となりました。前期でも同じようなことが何度もあり、後日、学生からは本当に懐かしく、恵まれたという感想をいただきました。62期卒業式が開かれました。政府から対面での卒業式は禁止されているため、予めプログラムを作成し、プログラムに割り当てられた関係者の方々にビデオを送っていただき、ビデオを編集・作成し、それをSNSで配信する形式となりました。常喜は校長ジャンレイ先生の割り当て部分のビデオ収録と編集、恭子は卒業式の司会進行役のナレーションを担当しました。卒業式では「困難な時代にキリストに根ざす」というテーマでウェスレーン教会代表ジャーニー・ギリアモ先生より式辞説教が語られました。今年卒業した学生は全部で93名でした(学位更新プログラム卒業生含む)。卒業後は現地の教会へ遣わされ、あるいは教育現場で働き、学校で身に付けたことを發揮し、神の国の建て上げ、拡大のために労していくこととなります。主が卒業生たちを聖霊を通して用いてくださいますように、サタンのあるゆる誘惑、攻撃から守られ、主の召命に応えることができるようお祈りください。■

「神を待ち望め」(詩篇四二・11)

「ウェスレー神学」のクラスは本来前期に行うのですが、諸事情で受講できず卒業を控えた男子学生ジェイマークのために一対一でクラスを行なって来ました。毎週クラスだけではなく、課題が与えられ答えを発表、それに対して常喜が質疑応答、議論をします。最後の授業は、ウェスレーの説教を1つ読み、それについて発表してもらいました。聞き手が常喜だけというのにも寂しいと思い、密かに同級生の男子学生2人に声を掛けて参加してもらいました。発表当日、彼は何も知らず、常喜にだけ発表すると思いきや、オンラインクラスに入ってきたところ、同級生の2人がいたので驚き、盛り上がりました。実はこの3人の学生は前期で常喜のクラス「ダニエル/黙示録」を受講していたので懐かしい再会ともなりました。ジェイマークの発表後、学生たちから「アダム罪」について質問があり、白熱した議論となりました。前期でも同じようなことが何度もあり、後日、学生からは本当に懐かしく、恵まれたという感想をいただきました。62期卒業式が開かれました。政府から対面での卒業式は禁止されているため、予めプログラムを作成し、プログラムに割り当てられた関係者の方々にビデオを送っていただき、ビデオを編集・作成し、それをSNSで配信する形式となりました。常喜は校長ジャンレイ先生の割り当て部分のビデオ収録と編集、恭子は卒業式の司会進行役のナレーションを担当しました。卒業式では「困難な時代にキリストに根ざす」というテーマでウェスレーン教会代表ジャーニー・ギリアモ先生より式辞説教が語られました。今年卒業した学生は全部で93名でした(学位更新プログラム卒業生含む)。卒業後は現地の教会へ遣わされ、あるいは教育現場で働き、学校で身に付けたことを發揮し、神の国の建て上げ、拡大のために労していくこととなります。主が卒業生たちを聖霊を通して用いてくださいますように、サタンのあるゆる誘惑、攻撃から守られ、主の召命に応えることができるようお祈りください。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子\*2021年6月11日

休暇の最終日に世界宣教局の局員会。ネットを通じて日本や他の宣教地の先生方とお目にかかることが許され感謝。

5月12日から勤務復帰。休暇3週目位から病院からの急な呼び出しで坂道を登って登院する時などに気力や体力の回復を実感してきて感謝。休暇後半は呼び出しも少なくななり、のんびり出来て感謝。

休暇中漏れ聞いたのは、スタッフの感染率上昇が問題になっている事。マスクの着用、手洗いの励行、互いに距離をとること、の再啓蒙がされていた。病院から午前10時や夜勤帯に支給されるチャイ(甘いミルクティー) 時間の諸注意発布もされていた。飲む時はマスクを外し、おしゃべりの時間になるため。手術室では昼食も支給されている。「密」防止に、病院長の台所に頼んで、以前よりも1時間早くから昼食を用意してもらい、広い時間帯で分散して食べる工夫がされた。給食のように1人1皿

にご飯とスープシチューのような物を盛り付ける献立なので、備え付けの皿数を減らして、1度に一定人数を越えない工夫もされた。

別棟の手術室管轄の部署で、数日前1人が新型コロナウイルス検査陽性だったので長期の病欠になり、何とかスタッフのスケジュールを都合してカバーしたところ、と聞いて勤務初日が始まった。午前中にもう1人陽性。隣の部署でも感染者が出て両部署全員検査した結果さらに2人陽性。総勢10人位の部署で4人が2週間近く抜ける事態。笑うしかない?テロ?とも考えたが、「他の事も自分でできるわけではありませんが、手に負えない事態です。できるだけお願いします」と短袴。婦長室の協力も得て、休日出勤や他部署からのやりくり等で何とか欠けがカバーされた。奇跡。本日休みのスタッフは、次の勤務前にまずスタッフ用のナースの所で健康診断と検査、となった。その後は陰性のみ報告で感謝。縁の下の力持ち的部署なので、もし閉鎖になっていたら病院全体が影響を受けていた所だった。そこまでは至らず感謝。また、中央手術室側にも広がらず感謝。

5月は看護の日も。病院全体では新型コロナウイルス対策で人数を絞った行事を病院のフェイスタックで生中継(録画あり)、さらに看護師全員にプレゼントがあった。手術室では医師の企画により回復室でミニパーティー。休暇中のA医師から感謝カードとおそらく妹さん

ん作のケーキの差し入れも。

そんな中、新型コロナウイルスのワクチン2回目接種を受けられ感謝。感染率が上がってきたので、陽性の患者さんの手術担当の割り振りや再開。一度始まると部屋から入りできないので。以前、陽性の妊婦さんの出産に備えて改装した第2回復室は、分娩や第3の隔離病棟として頻繁に使用されるように。一度空いても、出産も陽性の患者さんの入院も急に入ることが多いので、結局1か月位回復室として使用できていない。結果、第1回復室が満床、術後に回復室に入れない、次の患者さんが手術室に入れない、という事態も。

心臓外科手術も継続。先日、手術後半にあちこちからにじむような出血があり、命の危険のあった患者さんがおられた。スマホのネットワークで献血を募りつつ宣教師のご家族などに祈っていた。最近使えるようになった冷凍の血小板、高額なので2つだけ購入してあった止血用の「糊」のような医療用の液体、検査室にあっただけ止血作用の強い新鮮血(献血してから24時間以内の血液)、すべてが用いられた。

時間が遅くなったので用意されたソーダも摂らずに、患者さんの状態が芳しくないで失意のまま帰宅した担当のスタッフたちが翌朝驚くほどの回復が見られた。一同聖名を崇めて感謝。

■会計報告5月分

宣教献金 一、六五九、一五五円  
月平均 一、八三九、五七二円

お祈りの課題

台湾(平瀨)

◆久保先生(一家が無事に台湾に赴任され、3週間の隔離待機期間を守られた感謝と、ご一家の新生活と気候、文化への適応、諸手続きのため)

◆5月下旬から雨期に入り、台湾中部の水不足による断水措置は全面解除。コロナ感染拡大で警戒レベル3が発令。日米のワクチン無償供与に台湾の人々は大きな励ましと感銘を受けています。コロナの早期収束のために

◆オンラインに切り替えられた台中教会、台南日語礼拝のために。みなご心を一つにして進んで行けるように

◆教会のさまざまな引き継ぎを終えて本帰国する平瀨師の出入りと帰国後の二週間の自主待機のために

◆複雑な国際情勢の中、台湾の政治と経済、治安が保たれられ続けるように

◆集会人数制限が発出されている中、6月6日の教会創立12周年記念礼拝が祝された感謝

◆新しく礼拝に来られている方々や経済的な戦いの中を通されている教会員の方々に豊かな導きと助けが与えられるように

◆新型コロナが終息し、近隣への

次のステップが開かれるように近隣でも感染が徐々に広がって厳しい状況です。

ケニア(葛田就子)

◆新型コロナウイルス用ワクチン接種二回目を受けられた感謝

◆ウイルス関連の様々な長期ストレスの中にある患者さん、ご家族スタッフのため

◆麻酔科、整形外科を始めとする働き人(ルカ10章2節)が起るように

◆カンボジア(葛田緑乃)

◆KCCの群の全伝道者、特に地方でオンラインの伝道が難しい農村伝道者のために

◆急速にコロナによる規制が解かれ伝道活動が活発となり、また投獄中のパウロ兄の裁判で無実の罪が明らかになれば解放されるまで、獄内での伝道活動に心が燃やされるように

◆引き続きヴァンディ師の奥様、テス師の新しい仕事と、ダビデ君の教育費が与えられるように

◆フィリピン(豊田)

◆卒業(5月)した学生たち、夏休みに入った学生たちが霊肉ともに守られるように

◆来学期(8月)に向けて進められる大学の準備のために。ウエスレアン教会の霊的、経済的な必要のために

◆事故、事件、怪我、過ち、災害病氣、疫病から家族が守られるように。常喜の右目網膜の回復のために。宣教師ビザの更新手続きのために

# 聖宣神学院報



## Immanuel Bible Training College

### あなたのその力で

院長 ● 林 正弘

「行け、あなたのその力で。あなたはイスラエルをミディアン人の手から救うのだ。わたしがあなたを遣わすのではないか。」

(士師記六・14)

神さまはご自身の計画を進められるとき、人をお用いになります。もし私たちが神さまに用いていただけならば、それは本当に幸いなことです。神さまからお声をかけていただいたならば喜んで従いたいと思いますし、用いていただけるように備えができていたらすばらしいことです。しかし、聖書を見ていくと、準備万端整い、自信満々で自ら名乗りを上げる人が

用いられることはまずありません。パウロが語っているように、神さまは「この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者」を選ばれます。ギデオンもその一人でした。

主に召されたとき、ギデオンは自分がその務めにいかにふさわしくないかを訴えました。確かに彼の力は乏しく、ミディアン人を恐れていました。しかし主は、弱者のうちに力を見出されるお方です。「力ある勇士よ」と呼びかけ、「あなたのその力で」と語りかけられました。何の力もないように思われたギデオンに対してです。



森の中の聖宣神学院 食堂/図書室の建物です

主はギデオンに大きな使命を与え、「わたしがあなたを遣わす」と語り、また「わたしはあなたとともにいる」と約束されました。最初に主の使いが現れたときも「主があなたとともにおられる」と語られていました。ギデオンは即座に信じることはできず、しるしを求めました。主はしるしを示し、ギデオンが確信を持つことができるようにされました。自分の力はわずかでも主がともにいてくださるのなら大丈夫だと。ギデオンの「その力」は、彼の乏しい力というよりは、無力を認め、ともにおられる主に信頼するところにあったと言えるでしょう。

私たちも、自分の「その力」をもって行くなら、主に用いていただけです。

### 神学エッセー

### 信仰の旅路にて 2

### 洗足と聖餐式



野田 禎

はあなたがたのために流されるわたしの血です」と仰いました。弟子たちには何のことやらさっぱり分からなかったかも知れません。しかし後になって弟子たちが互いに足を洗うようになった時、聖餐式としてパンとぶどう酒を頂く時に、イエス様の愛をかみしめ、「あのイエス様が私の足を洗ってくださり、十字架に架かってくださった。だから私も周りの方々ためにここを込めて仕え、愛そう。主がそうして下さったように」と思ったことでしょうか。

ユダがあの日、席からすっと抜けた後、イエス様はこう仰いました。「わたしがあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であること、すべての人が認めるようになります。」大切なお言葉です。

私の好きな讃美歌に「主よわが主よ」があります(イ567)。その中に「かくまで主を愛するは今日初めの心地して」という歌詞があります。今はコロナ禍で、なかなか聖餐式をすることができません。それぞれの教会がどのような形であれ、配られる聖餐のパンとぶどうの液を頂けると、また頂けない環境であっても、イエス様の命がけの愛を思い、互いに「愛します」と祈る時、イエス様は喜ばれることでしょうか。

レオナルド・ダビンチ、「最後の晩餐」と言えば、その絵が思い浮かぶ方が多いと思います。イエス様は、その晩餐の翌日に十字架に架けられることをご存知でした。この大切な晩餐の時さえ、弟子たちは誰が一番偉いかということを議論していました。イエス様はそのような弟子たちを叱ることなく、一人また一人と足を洗って下さいました。(ヨハネ二二章)

私はある教会で「洗足式」に与ったことがあります。互いに足を洗うことで、イエス様の愛の深さを、愛するということを実体験した貴重な時でした。

イエス様が足を洗うときのまなざし、温かい手。誰が一番偉いかと考えている彼らに、仕えることを教えて下さったのです。そこにはご自分を裏切るイスカリオテのユダもいました。彼も含めてイエス様はパンとぶどう酒も弟子たちに下さいました。「このパンはあなたがたのために与えられる、わたしのからだ。このぶどう酒(杯)

◆学びの中で想うこと

益と変えてくださる

主に信頼して

正規コース 森 徳子のりこ

ルーテル、日本キリスト教団、正教会、聖公会―5年前、いろんな教団・教派の教会に通いました。ほかに行くところもなく、かといって教会に行かないという選択肢もなく、ただその時の必要・思いに任せて、1か月、2か月とお世話になったのです。表向きは勉強になるという思いでしたが、心の底では救いと癒しを求めています。

その時の体験が、今、授業を理解する助けになっています。また、救いについて、きよめについて、自分ほどの立ち位置にいるのか、理解においてどこが間違っているのかなどの整理も、併せて進められています。マイナスをプラスに変えてくださる主は、私がつつ傷や痛み、失ってしまった時間さえも、今必要な学びへと変えてくださっています。これらの体験・学びが自分だけにとどまらず、将来、主によって用いられることを思いみるときに、すべてを益と変えてくださる主に感謝します。「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された

人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

(ローマ八・28)

緊急事態宣言を受けて、授業は8つのうち5つがオンラインとなり、週の大半を寮で過ごしています。気分転換・運動不足の解消にと、意識して外に出ています。寮を出、食堂の前を通り、正門に向かうと、左側には紫陽花がきれいに咲いています。教報が届く頃は、もう咲き終わっているでしょうか。その代わり、斜面に植えられたナスやトマトが実をつけていると思いますと、実に楽しみです。ピワ桑の実、サクランボ、どれもおいしかったです。神学院はいろいろな実のなる所ですね。

◆学びの中で想うこと

書斎から

聴講生 石川牧子

「ちょっと待っててね、どこだったかなあ」そう言って参考図書を探しに行かれ、現物をすぐに画面越しに見せてくださる先生。パピルスで描かれた聖書の写真をパッと近づけて「これが本物の……」と見せてくださる先生。「こっこの聖書の訳だと」と言って他の訳の聖書をすぐに取り出して比較

したものを教えてくださったたり、お昼前になると必ずご飯待ちの猫ちゃんの鳴き声が聞こえてきたり。これが今私が受けているオンラインでの授業です。

昨年はコロナ禍で対面授業がほとんどなく、制限の中にありました。4月からやっと対面授業が再開されて神学生同士の交わりにホッと始めた矢先の緊急事態宣言。残念な気持ちは隠せません。でも授業をしてくださる側の先生方は、そんな中でも試行錯誤しながら、学ぶ私たちのために様々な工夫をされておられます。日々の牧会をされながら、私たちの学びのためにも時間を割いてくださっていることに感謝を覚えます。いつも説教を準備されているその書斎からのクラス。

そして受け手の私の方も「お母さん、トイレ」なんていう割り込み客が入る家族寮。先生方もホーム。私たちもホーム。そこにはどこか安心した授業風景があります。コロナ禍でいつも制限と緊張の空気が消えない昨今。この授業の空気感はイエス様がそこにおられる証拠だなと思わされます。これはコロナ禍での私たち神学生への憐れみです。アブラハムにも、イサクにも、ヤコブにも、モーセにもヨシヤにも語られたのは「私はあなたとともにいる。」今もその主は生きておられ、私たちの間で平和の空気を注いで下さっています。たくさんのお祈りによってこのような学びが継続できてい

ることを心から感謝を致します。「私はこの口で、大いに主に感謝し、多くの人々のただ中で、主を賛美します。」(詩篇一〇九篇30節)



夏の近さを感じさせる、かわいらしいヒマワリ

神学院の新しい態勢

聖宣神学院の

教育について

学監 梅田 昇

聖宣神学院創設の目的は、神の教会を牧する牧師、伝道者を養成することです。パウロはエペソの長老たちに「神がご自分の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、聖霊はあなたがたを群れの監督にお立てになったのです。」(使徒の働き二〇・28)と

勧告しました。神の教会を牧するために、知的な教育、人格的な鍛錬、実践的な訓練がバランスよくなされる必要があります。教会は人格的な働きで、単に知識だけでは牧会を果たすことできません。人々に信頼される牧会者が生み出される必要があります。授業だけでなく、主と共に歩む敬虔な生活、人間関係における真実さが問われています。

クラスで言えば、他の神学校と共通の内容があります。聖書や神学、牧会学や説教学、音楽、聖書言語などがあります。他教団出身の神学生がおられますので、福音的な教会での奉仕が可能な牧師の養成を当初から目指して神学教育が続けられてきました。ウエスレアン神学の伝統を受け継ぐ聖宣神学院ですので、神学的な遺産を学ぶことは肝要であることは言うまでもありません。ですから、メソジズム(ウエスレーの生涯と神学)、教団条例、ホーリネスと聖書、ホーリネスと神学というような聖宣神学院に独自のクラスもあります。また説教学、礼拝学、牧会神学、伝道学、宣教学のような実践的なクラスもあり、教会史、日本教会史、宣教史などもあります。聖書神学、歴史、実践から総合的に学ぶことができます。

神学教育において大切なことは、教師のよき模範と敬虔な言動です。神の人の養成を目指して聖宣神学院の営みは今後も継続されていきます。

いま神学院では……  
**ヘブル語を学ぶ喜び**  
 教師●川嶋直行



前期、木曜日の午後の2コマ、ヘブル語クラスを担当しています。テキストは『聖書ヘブル語4週間』（いのちのことば社）を使っています。アレフベートの書き方や発音の初歩の初歩からスタートします。ヘブル語に苦手意識を持たないよう、むしろ、旧約聖書の原語を学ぶ楽しさが感じられるよう、ゆっくりペースで学んでいます。

受講生は3名で、Zoomを使ったオンライン授業を行っています。対面の黒板を使った授業とは違い、少々、工夫と設備投資が求められます。読みと発音に関してはほぼ問題はありません。出来るだけ、ヘブル語のネイティブ・スピーカーの朗読を流し、正確なイントネーションや発音を耳で捉えるようにしています。ヘブル文字の書き順や、似た文字の違いを認識できるように、共有画面のホワイトボード機能を使い、ペン・タブレットによる書きで強調すべき点を提示しています。一歩難しいのは、受講生が書いた練習問題を、モニター越しにチェックすることでしょうか。小テストの時は、

スマホのカメラで撮影し、チャット機能でファイル転送してもらいました。

クラスのゴールは、創世記1章を釈義出来るようになることです。『ハーバード式Zoom授業入門・オンライン学習を効果的に支援するガイド』（青弓社）にざっと目を通してみましたが、Zoom授業は、対面とさほど遜色ない授業が可能ではないかと感じています。私にとっては、電車による移動がない為、時間的、体力的なメリットが大きいです。

ヘブル語を学ぶ意義は、決して小さくありません。ヘブル語は、割とアバウトな言語で、新改訳や口語訳、新共同訳等、日本語訳聖書を比較すると、ニュアンスが、微妙に、時にはかなり違っていると感じることがあります。そのような時、原語をチェックし、自分で意味を確認することが必要になります。原語に直接触れてみて、「なるほど、そういうことか」と、包括的な意味を見出す時、大きな喜びを感じます。

長い歴史の中で、時代を超えて多くの人たちの努力により丁寧に書き写され、聖霊によって、大切に保存されて来た「神の言葉」に触れる感動を覚えます。ヘブル語の学びは、聖書原語の学びに留まらず、現代における諸問題を「神学する」素養となると信じます。ヘブル語を学びながら、そのような「面白さ」を感じ取ってもらえる授業を目指しています。

**同窓生の近況**

60期生

駒岡ホルン家の教会●長尾順子



「わたし自身、あなた方に立てている計画をよく知っている。主のことは、それはわざわざいわずに平安を与える計画であり、将来と希望を与えるものだ。」  
 (エレミヤ二九・11)

主の聖名を崇め賛美いたします。いつも尊いお祈りを賜り感謝いたします。神学院卒業後、家の教会を開設し9周年を迎えます。昨年は緊急事態宣言下で7か月休会を余儀なくされました。その間、メールや40日の祈りを通して交わりが出来た事は感謝でした。

「集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。」のみことばにより10月からチャペルを再開しました。様々な制限の中で心を一つにして祈る毎日は初代教会の姿と重なり感動しています。どのような状況でも、祈りの世界は自由で広い世界です。平安と将来と希望を与えて下さる神様、悪を善に変えて下さる神様に従って行きたいと思えます。

最後になりましたが諸教会、神学院の御祝福をお祈り申し上げます。

神学院スタッフ…恵みの想起

**鳴くカラスの子に  
食物を与える方**

宮緒課 徳竹信雄

気になるのはカラスが学院の森で幅をきかせていることです。なんとか懲らしめようと思練っていると、通りがかりに鳩に餌を撒いていく人がいるのに気づきました。鳩を追い払って陣取るカラスを何度も見て、これには頭を抱えました。見つけたら注意するしかありません。すぐにその時が来ました。全身の力を込めて「やめてくださいー餌をまかないでー」と声を張り上げて叫びました。ビックリした様子で立ち去って行きました。自分の大声に自分でも驚きましたが、これは神様が叱ってくださったと思うことにしました。翻って「鳴くカラスの子に食物を与える方」(詩篇一四七・9)に思いを馳せ、豊かに養って頂いている自分の姿に感謝したことです。

学苑だより

- 7月を迎え、前期の授業の締め括りが近づいて来ました。まもなくテスト週、それが終わると夏期実習に入ります。
- OCCでの神学院祈り会は中止されていますが、学院内での夜の祈り会は毎週水曜日に行われています。
- 後援会たより第9号が発行され、各教会に配布されていますので、ぜひお読みください。
- オンライン授業が中心ですが、前期授業も順調に進んでいます。なお、神学生、先生方の健康が支えられますようにお祈りをよろしくお願いいたします。
- 6月には図書館実務会も開かれました。図書館の設備や環境が必要に応じて整えられるように検討されています。
- 樹木の成長には驚かされます。キャンパス整備のために徳竹信雄先生が労してください。



**サポーターズ**

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。5月の会計報告をさせていただきます。

5月分支援実状  
 [今年度毎月献金目標]  
 ￥1,500,000

教会員による  
 「神学院サポート献金」  
 ￥643,810  
 教会団体による「神学院献金」  
 ￥514,725  
 合計 ￥1,158,535  
 その他の献金(一時・特別)  
 ￥106,000

・振替：00230-0-10138

# 公報

## 本部通達

その人は、水のほとりに植えられた木。流れのほとりに根を伸ばし、暑さが来ても暑さを知らず、葉は茂って、日照りの年にも心配なく、実を結ぶことをやめない。

(エレミヤ一七・8)

梅雨が明け、本格的な夏を迎えました。今月末から秋にかけては各教区の聖会、とにキャンがオンラインを用いて開催されます。一人でも多くの方が祝福を受ける時となりますようにお祈りください。

### ■本部

27日(火) 10時30分  
教団運営委員会(オンライン)

### ■国内教会局

▽引退、休養等の意向のある牧師は、8月末までにブロックアドバイザーにお申し出ください。

\*各地域の聖会情報

- ◇ポプラ聖会(北海道地区) 中止
- ◇東北聖会(南北合同ズーム開催) 7月31日(土)～8月1日(日)
- 講師 大兼久芳規師
- ◇北関東聖会
- 9月19日(日)～20日(月) 講師 田中進師 \*開催形式は後日決定
- ◇東関東聖会 11月3日(水)
- 会場 市川サンシティ 講師 古波津保秀師(COG川崎教会)

◇林間聖会(ZOOM開催)  
8月9日(月) 講師 佐藤信行師

◇静岡聖会(DVD聖会) 11月3日(水) 前後に各教会開催  
講師 浜田耕三師

◇中京聖会(オンライン開催) 9月19日(日) 午後 講師 小坂嘉嗣師(日本宣教会狭山教会)

◇北越聖会 10月31日(日) 新潟/北越地区共に録画を用いて各教会で開催 講師 浜田耕三師

◇関西聖会(YouTube開催) 9月20日(月/祝) 午前 講師 南場良文師

◇四国聖会 未定

◇中国聖会 未定

◇九州聖会(YouTube配信) 8月18日(水) 講師 江上環師(日本ナザレン教団青葉日教会)

◇沖縄聖会 11月7日(日) 講師 岩上祝仁師

### ■世界宣教局

▽運営委員会 7月6日(火) 10時

▽台湾の久保光彦・せきな宣教師は、3週間の隔離・待機期間を終え、平瀬義樹師と引継ぎ事務を始めた。移住局より居留証も受け取ることができました。ご長女の愛実さんは、現地の日本人学校に転校され、オンラインでのクラスに参加しておられます。新しい地での生活と働きのためにお祈りください。

▽台湾に残っておられる平瀬義樹師は、引継ぎ事務を完了させ、6月中の帰国を目指しておられます。▽月々の宣教献金、宣教コイン献金にご理解とご協力を宜しくお願ひいたします。

〈IWF関係〉

▽5月25日(火) 午後、IWF理事會がオンラインで開かれました。教団から4名、IWFから6名が出席し、各宣教師の近況報告を受け、今後の協力について話し合われました。

▽ホワイト宣教師ご夫妻のオンライン漫画(ミニストーリー(Draw-bridge Creations))は、8月に初めてのシリーズを開始する予定です。すべての準備の上に主からの豊かな知恵と力が注がれますようお祈りください。

### ■教育局

〈教育部・生涯学習課〉

▽若手牧師研修会(ZOOM) 日時 7月20日(火) 午後1時半～4時 テーマ「牧師と学び」講師 野田禎師

プログラム「デイボーション、発題&質疑応答、グループ別分ち合い 申込窓口 田辺寿雄師

〈教育部・信徒教育課〉

▽各教会・個人で自由に視聴可能な信徒向け聖書講座(無料) 提供中。内容「使徒の働き」の学び(現在は第8回目まで公開中) 講師 岩上敬人師(JEA総主事)

教団公式サイト「教育局」信徒教育課からアクセス可。

▽信徒伝道者スクーリング(ZOOM) 日時 8月31日(火) 午前9時半～午後4時 内容 聖書講義と説教演習、コインニア等。窓口 野田禎師

〈青少年部・青年課〉

▽ビルド(「YS」を名称変更)

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣  
発行所 東京都千代田区神田駿河台一〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

会合 毎月1度、テーマを決めてZoomで開催中。毎回15～20名程度の方々に参加中。(担当窓口 吉村和記師、川村和臣師)

〈青少年部・中高生課〉

▽第14回とにキャン(2021) 日時 8月12日(木)、13日(金) Zoomによる開催

講師 大島重徳師(鳩ヶ谷福音自由教会) テーマ「神からのエール」お楽しみプログラム 大抽選会、オンライン脱出ゲーム、マジック・グランプリなど 申込 チラシのQRコードを用いて(牧師からの登録ワードが必要) 問い合わせ窓口 阪下謙師

〈eラーニング〉

新聖書セミナー③

5月17日から開講中(noteのマガジン購入によるオンライン開講、8週間、途中からでも受講可能です)「ペテロの手紙第一を読む」

講師 石川学師(小山ナザレン教会牧師) 申込 教会配布チラシQRコードを用いて。牧師・神学生・信徒伝道者には補助があります。補助申請窓口 野田禎師

### ■聖言神学院

▽神学院祈り会は休止中です。

▽夏期実習は8月2日(月)～9月26日(日)の8週間です。

▽秋の入学審査は9月6日(月)に行います。必要な方は資料を請求してください。

### ■信徒局

▽全国信徒フォーラムに向けて 5月28日(金)に信徒フォーラム2回目の打ち合わせ会が、オンラインにより、必要な方は資料を請求してください。

5月28日(金)に信徒フォーラム2回目の打ち合わせ会が、オンラインにより、必要な方は資料を請求してください。

5月28日(金)に信徒フォーラム2回目の打ち合わせ会が、オンラインにより、必要な方は資料を請求してください。

5月28日(金)に信徒フォーラム2回目の打ち合わせ会が、オンラインにより、必要な方は資料を請求してください。

5月28日(金)に信徒フォーラム2回目の打ち合わせ会が、オンラインにより、必要な方は資料を請求してください。

5月28日(金)に信徒フォーラム2回目の打ち合わせ会が、オンラインにより、必要な方は資料を請求してください。

5月28日(金)に信徒フォーラム2回目の打ち合わせ会が、オンラインにより、必要な方は資料を請求してください。

# 消息報告



ラインにより、主講師の朝岡勝勝と信徒局から3名の担当者が出席して持たれました。午前(教会)と午後(家庭・仕事)の2回に分け、「この時代にキリスト者として生きる」というテーマで、主講師による投げかけがYouTube配信されます。リモート参加者のために、ズームを利用したディカッションと交わりの時を持つ予定です。若い年齢層の方々にも参加を呼びかけています。11月23日(火)祝に向けて準備を進めています。

▼竿代信和師(引退牧師)は6月17日、85年の地上生涯を走り終え召天されました。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。

▼富澤香姉(元宣教師)連絡先 263-0043 千葉県千葉市稲毛区小仲台3丁目6-11 電話 070-7793-8907 ruthkomiisawa@gmail.com

▼根廻恵子姉(元宣教師)連絡先 270-1347 千葉県印西市内野3-301・5 東京キリスト教学園家族寮303 電話 070-4033-2942 2022年8月までの住所です。kn1222m633@gmail.com

▼一木訓治師・茂子師の電話番号(先月号の教報、祈りのネットワークに掲載)を訂正いたします。

正しくは080-3012-7158です。教報PDFパスワードは9541

新生宣教師 定価 一部110円(税込) 郵便振替 00110071333609

新生宣教師 定価 一部110円(税込) 郵便振替 00110071333609